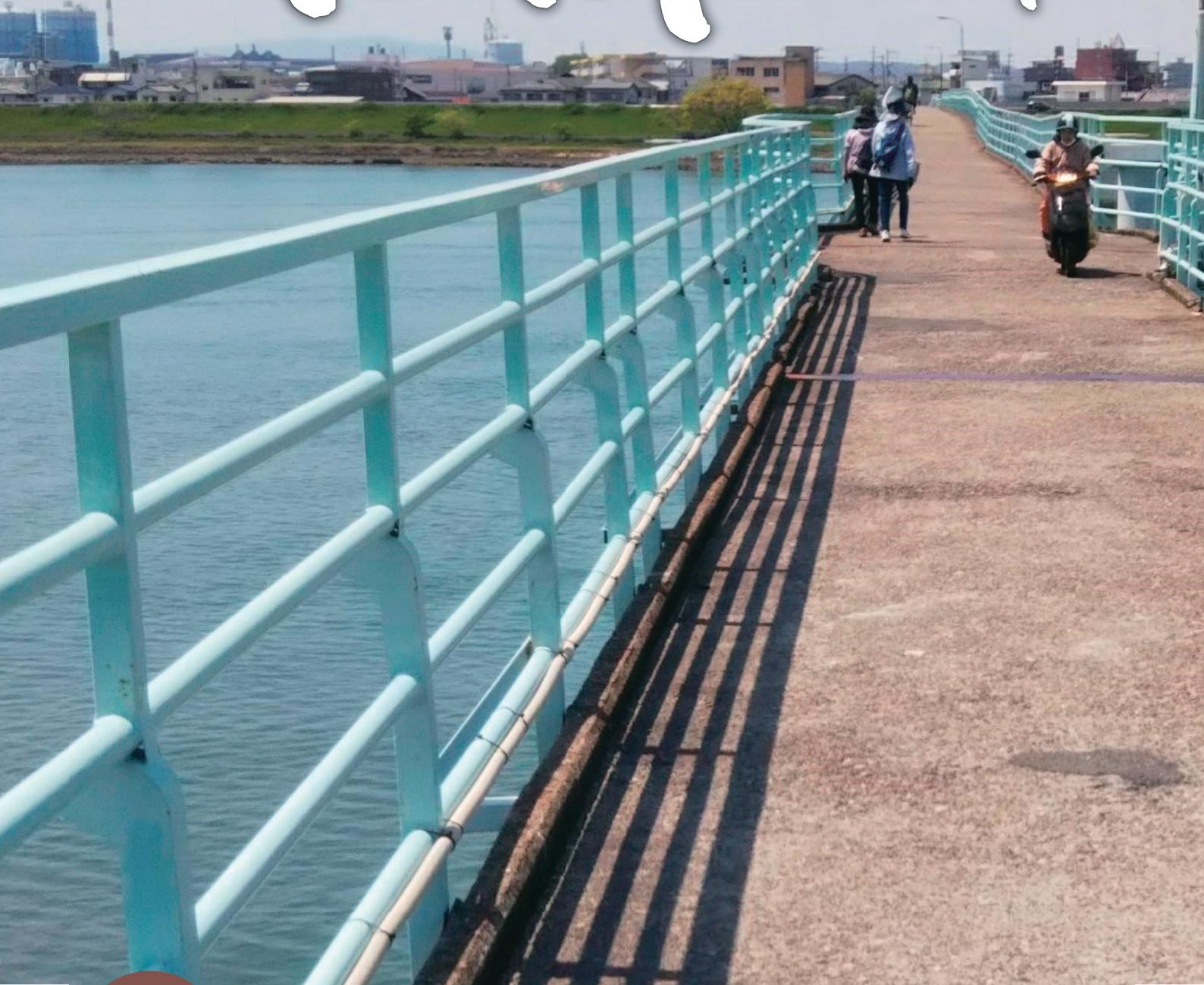


ふるさと再発見！

vol.31

# ほりぼりわいわい



卷頭  
特集

あの頃の中心市街地へGO!  
—1990年代の和歌山市—

散策  
ものづくりat和歌山  
わかやま魅力発信人  
I ❤ WAKAYAMA 私の和歌山

悠久へいざなう“くちくまの”—上富田町—  
希少なミシンと技術で「メイドイン和歌山」を—オランジェー  
野崎 貴志さん ~和歌山市民図書館 館長~  
上富田町長 奥田 誠さん

平成9年(1997)当時の和歌山中心市街地。  
いまはもう見ることのできない  
懐かしい建物や施設がたくさんある。



今日は中学時代からの友人と待ち合わせ。駅のロツテリアや駅前のミスターードーナツでの待ち合わせも考えたけれど、お金の節約も大事と、ファーストビルの宮井平安堂で合流。そのまま、プラクリ丁方面に徒歩で向かう。

学校が午前中だけで終わった土曜の午後、街歩きのスタートは南海和歌山市駅から。駅前の信号待ちは、まるで大阪心斎橋のような人出だ。紀ノ川の北側に住んでいる身からすると、「街中にはこんなに人がいるんだなあ」といつも驚かされる。

### 市駅前は心斎橋?

今から30年前、平成初期のぶらくり丁や本町、駅周辺は、まだまだ若者の集まる街だった。今回の「ほっほわかやま」は、そんなにぎやかだった頃を楽しむ特別企画。1997年の地図を頼りに、当時の若者の気分になつて中心市街地へでかけてみよう。

# あの頃の 中心市街地へGO!

—1990年代の和歌山市—



堀止方面から中心市街地方面に向かう高校生。1998年。

丸正百貨店の横を通り過ぎて、プラクリ丁入口のマクドナルドを横目に一端右へ折れる。目当ては宮井平安堂の本

### マクドナルドが目印

店のあたりまでは、おしゃれな洋服店がずらり。この辺の大通りの間からは和歌山城を見通すことができる。小さい頃にはお城の公園のなかに県立図書館があった。両親に連れられて本を借りに行つたのも楽しい思い出だ。

店。学校で必要な買い物を先に済ましておこうということでおで、1階の文具売り場でおしゃれなルーズリーフバイインターを買った。

そうこうしているうちにお腹がすいてきたので、相談の結果、少し背伸びしてグリルエイトへ。子どもの頃、図書館の帰りに連れてきてもらつた思い出がある。おすすめは柔らかいヒレカツだ。

## 高校生の流行発信地

お腹が満たされた後は、再び本町方面へ。丸正、大丸、ポポロ、デパートやファッショビルはいろいろあるけれど、高校生のショッピングスポット言えば、やっぱりビブレだろう。中ぶらくり丁のアーケードを通り抜けて、築地通りに出た。

ビルに入つて、男性用ファッショனのフロアでは、そこかしこでのフロアでは、そこかしこ

に同年代の若者が。なかにはヤンチャそうな人もいるから、あまり目立たないようにしておこう。よさそうなパークーがあつたけど、今日の手持ちでは少し足りない。お金をためて、またの機会に。

## どの映画館にしようか

最後は、和歌山帝國座で映画鑑賞。シネマプラザ築映を過ぎて、雜賀橋を渡り、いざ、映画館へ。小学生の頃には丸正前の和歌山東映シネマでアニメ映画をよく観たけれど、最近はこの辺まで来ることが多い。

映画館に入つて2時間。大満足で出てきたら、空はすっかり夕焼けに。名残惜しいけれど、映画の感想を話しながら市駅へ急ぐ。この時間でも、駅周辺はまだ人通りが多い。

今日は楽しかったな。来週は屋形通りから長崎屋まで行って、ボウリングでもしよう。



新通の老舗の薬局「中六」

# あの頃 メモリーズ



90年代後半頃の新通。アーチに「和歌山銀行」の文字が見える。

Plaza BBの3階「POCHI HARAJUKU」フロアの広告。1978年ごろ。



和歌山城公園内の和歌山県立図書館。職員の女性たち。

# 本町文化堂

ぶらつと立ち寄れる  
「まちなかの本屋さん」

もともと万町に店舗を構えていた「本屋プラグ」が20

24年、洋裁学校跡の建物に移転し、店名を変えてリニューアルオープンした。新刊本はもちろん、個人で出版

したような本や、江戸時代の本まで、珍しいものが並び、店に入るとまるで宝探しのような楽しさがある。

代表社員の三木早也佳さんは「私の学生時代はまだ市の中心部に大きな本屋さんがあって、出かけるのが楽しみだった」と振り返る。今は書店の数も減ってしまったが、これからは自分たちの店が本好きの人たちが立ち寄れる場所に



本町文化堂

〒640-8033 和歌山県和歌山市本町3丁目6  
TEL/FAX:073-488-4775  
E-mail:btcc.wakayama@gmail.com  
URL:<https://www.books-plug.com/>



なれるよう、「まちなかの本屋さんとして営業を続けている。

「私は『家が本屋さんだつたらいいのに』と思っていたこともあるくらいに本が好き。そういう人にどんどん訪れてもらつて、人と人のつながりが増えていけばうれしい」と三木さん。この場所を中心、「本の街」の輪が広がることを夢見ている。

# 古きを知り、未来をつくる

## ゲストハウスRICO

出会いをきっかけに  
地域の魅力に触れる場所

築50年を超えるテナント

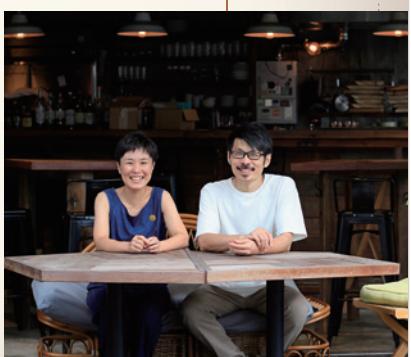
付共同住宅「ユタカビル」をリノベーション。「訪れる人が、出会いを通して自分の中にある豊かさの種に気づく場所」をコンセプトに、2015年にオープンしたのがゲストハウスRICOだ。

宿泊客はもちろん、ダイニングバーのお客さんや、コワーキングスペースを利用するビジネスマンなど、さまざまな人が訪れる。「ここでの出会いが、地域の魅力に触れてもらうきっかけになつてほしい」。その信念のもと、宮原崇さん、麻里さん夫妻が一人三脚で運営に取り組んでいる。



ゲストハウスRICO

640-8111 和歌山県和歌山市新通5丁目6番地  
TEL:050-3529-6550  
E-mail:[guesthouserico@gmail.com](mailto:guesthouserico@gmail.com)  
URL:<https://www.guesthouserico.com/>



大新地域の活性化を目指し、大新公園を会場とするマ

ルシェ「大新ビクニック」や、まち歩きの「大新散歩」などのイベントにも取り組んでいる。2024年には地元住民による昔の話、今の話をまとめた「大新今昔よもやま話MAP」を作成。ゲストハウスRICOのホームページからダウンロード可能だ。

# 悠久へいざなうのくちくまう

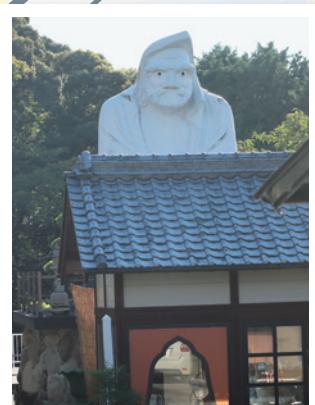
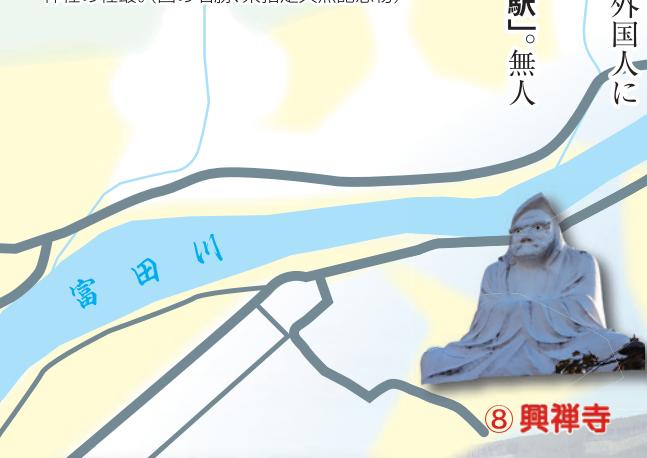
—上富田町—

和歌山県の南西部に位置し、町の中心に富田川が流れる自然豊かな上富田町。熊野古道のひとつ中辺路の入り口にあたり、古くから「口熊野」として親しまれてきた。



⑥田中神社の森 [岡403]

南方熊楠ゆかりの「オカフジ」に覆われた田中神社の社叢。(国の名勝、県指定天然記念物)



⑧興禪寺 [市ノ瀬無番地]

日本一といわれる高さ5メートルの白いダルマ坐像があり通称「だるま寺」。ツヅジの名所

## アクセス

電車で:

JR紀勢本線(きのくに線)  
「朝来駅」下車

車で:

紀勢自動車道  
(松原那智勝浦線)「上富田IC」

熊野三山へと続く熊野古道には複数のルートがある。中でも、紀伊路から中辺路・大辺路への分岐点である地域は「口熊野」と呼ばれて、古くから熊野地方への玄関口として栄えてきた。京都・大阪方面から南下した紀伊路が、上富田町では東に分かれて山間部へ向かう中辺路となる。世界遺産登録20年を迎えた現在は、特に外国人に人気のルートだ。

町内唯一の駅は「JR朝来駅」。無人

駅の木造駅舎は、観光案内所やカフェスペースを備えた売店として活用され、定期的にイベントも開催されている。近くの旧小学校校舎は郷土資料館に活用されている。

町内の世界遺産には「稻葉根王子跡」と「八上王子跡」があり、その中間

駅の木造駅舎は、観光案内所やカフェスペースを備えた売店として活用され、定期的にイベントも開催されている。近くの旧小学校校舎は郷土資料館に活用されている。

駅の木造駅舎は、観光案内所やカフェスペースを備えた売店として活用され、定期的にイベントも開催されている。近くの旧小学校校舎は郷土資料館に活用されている。また、水位が上がると水中に沈む潜水橋「畠山橋」から川面をのぞくと、暴れ川の面影はなく、澄んだ清流が広がっていた。

富田川周辺から少し足をのばせば、岩や地層を利用して様々な社やお堂がある「救馬渓観音」や、巨大なダルマが目をひく「興禪寺」、さつきの名所である浄土宗の「觀音寺」など見どころが豊富だ。自然と文化を存分に楽しめる上富田町に、ぜひ訪れてみてほしい。

には「田中神社」がある。南方熊楠が守った森は南紀熊野ジオパークのジオサイトのひとつだ。他にも、富田川の潜水橋や彦五郎堤防、救馬渓などがジオサイトに指定されている。

富田川には、氾濫を鎮めるために人柱となつたとされる彦五郎の伝説がある。約1kmにわたる堤防のそばには彦五郎公園があり、石碑が建っている。また、水位が上がると水中に沈む潜水橋「畠山橋」から川面をのぞくと、暴れ川の面影はなく、澄んだ清流が広がっていた。

富田川周辺から少し足をのばせば、岩や地層を利用して様々な社やお堂がある「救馬渓観音」や、巨大なダルマが目をひく「興禪寺」、さつきの名所である浄土宗の「觀音寺」など見どころが豊富だ。自然と文化を存分に楽しめる上富田町に、ぜひ訪れてみてほしい。



### ③彦五郎公園

暴雨川だった富田川に堤防を築くにあたり、自ら人柱になったと伝えられる彦五郎ゆかりの公園。



### ②救馬渓観音 (生馬313)

約1300年の歴史をもつ、紀南地方で最古のお寺。近年は「あじさい曼荼羅園」が有名。



### ①JR朝来駅 (朝来1361-2)

「口熊野かみとんだ観光案内所」があり、町木「やまもも」の加工品を扱う売店「Kumano Berry」も人気。



### ⑤稻葉根王子跡 (岩田2988-2)

熊野九十九王子の中でも社格の高い「五躰王子」のひとつ。（ユネスコ世界遺産、国指定史跡）



### ⑦ 八上王子跡 (岡1382)

熊野九十九王子の1つで、西行法師が歌を詠んだことで知られる。（ユネスコ世界遺産、国指定史跡）





# 「メイドイン和歌山」をで 希少なミシンと技術で

工業用のミシンは、家庭用のそれとは音が違う。オランジェで活躍するのは、そのなかでも特に重厚なビンテージもののミシンだ。特別な機械と、それを扱う確かな技術で、「メイドイン和歌山」のブランド構築を目指す。

ものづくり  
at 和歌山

縫製

ニット産地の工場



ユニオンスペシャル社製のフラットシーマーミシン。  
シリアルナンバーが記されている。

和歌山は日本有数のニットの産地。明治時代以来の歴史があり、カツトソーやはウェットシャツに使われる丸編みニット生地のシェアは全国トップクラスを誇る。

そんな地域で50年以上、縫製の技術を磨き続けているのが、和歌川沿いに工場を構えるオランジェだ。パワーが段違いの工業用本縫いミシンや、ニット素材の縫い合わせを得意とするロックミシン。多種多様なミシンを駆使し、

一針一針にこだわって縫い上げた製品は高品質で、高級アパレルブランドからの信頼も厚い。

## フラットシーマーミシン



縫い手の技が光る

それらのミシンのなかでも、特に希少価値が高いのが、ユニオൺスペシャル社（アメリカ）製のフラットシーマーミシンだ。1962年（昭和37）頃に同社が開発したもので、現在は生産を終了しており、国内に数台しか残っていない。

とはいっても、年代物の機械を37) 頃に同社が開発したもので、現在は生産を終了しており、国内に数台しか残っていない。

それでも、「縫製は技術職」の信念のもと、縫い手たちは日々クオリティを高めている。

## 縫製の技術を未来へ

そんなオランジエでリーダーを務めるのが、代表取締役の西田晴美さん。同社の事務職として経験を積み、経営を引き継いだ。西田さんが力

ではの味のある仕上がりも魅力で、ビンテージ風の洋服の縫製に使用されることもある。ビンテージのミシンならではの味のある仕上がりも魅力で、ビンテージ風の洋服の縫製に使用されることもある。

とはいっても、年代物の機械を入れるのは、培つてきた技術を未来につなげること。日本本の縫製技術を次世代に残すことは自分たちの責任だと考えていている。

令和4年（2022）には、「ミライテソーアイングスクール」を開講した。子どもから初心者、上級者まで、誰でも気軽に縫製を楽しめる教室で、フラットシーマーをはじめとする本格的な工業用ミシンを使い、平らな縫い目や、厚手の布、二本縫いなど、プロ仕様の製作にチャレンジす



製品は厳しくチェック

## 和歌山みかんのように

るコースも人気だ。

教室でミシンを体験した受

講者が、その後、オランジエに入社したこともある。少しすつでも、「日本の縫製」の裾野を広げている。



## 有限会社オランジエ

〒641-0007

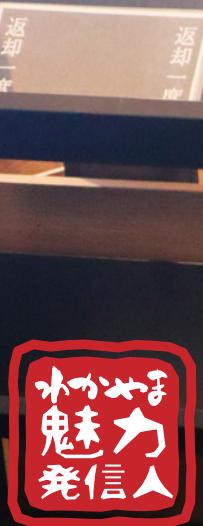
和歌山県和歌市小雜賀677-12

TEL : 073-499-5106

<https://orangewakayama.jp/>



ソーイングスクール



和歌山市民図書館 館長  
**野崎 貴志さん**

## 本と人と地域をつなぐ

今回は佐賀県出身で、司書の野崎貴志さんに、図書館長の立場から和歌山の魅力を語っていただいた。

本を読むようになつたのは、その必要があつたから。大学で国文学を専攻したこと、夏目漱石や志賀直哉、村上春樹などを読むようになつた。その後は国語教師になるつもりで勉強していたが、講義で絵本のすばらしさに触れたこともあり、司書を目指すことに。資格を取得し、地元の図書館に勤めた。

本を読む頃はあまり本を読むほうではなかつた。当時は週刊の少年マンガの全盛時代。まわりの友達と同じように夢中になり、活字にはあまり縁がない少年時代を過ごした。だから、子どもの頃の自分がもし今の姿を見たら、和歌山に住んでいることはもちろん、本に囲まれて働いていることも意外に感じるかもしれない。

本を読むようになったのは、その必要があつたから。大学で国文学を専攻したこと、夏目漱石や志賀直哉、村上春樹などを読むようになつた。

本を読む頃はあまり本を読むほうではなかつた。当時は週刊の少年マンガの全盛時代。まわりの友達と同じように夢中になり、活字にはあまり縁がない少年時代を過ごした。だから、子どもの頃の自分がもし今の姿を見たら、和歌山に住んでいることはもちろん、本に囲まれて働いていることも意外に感じるかもしれない。

実は、子どもの頃はあまり本を読むほうではなかつた。当時は週刊の少年マンガの全盛時代。まわりの友達と同じように夢中になり、活字にはあまり縁がない少年時代を過ごした。だから、子どもの頃の自分がもし今の姿を見たら、和歌山に住んでいることはもちろん、本に囲まれて働くこと

### 和歌山も司書も意外

### 有吉佐和子の小説で勉強

「紀ノ川」には、炎上する和歌山城を六十谷から見る場面がある。和歌山に来てからしばらくして、今は周りに高い建物が増え、和歌山城が見えないことに気づいた。初めての土地でも、本を通じて風景の移り変わりを感じることができる。そのことを再確認する出来事だった。

### 圧倒的なスケールの自然

南国と言われることの多い和歌山だが、生活する和歌山市の中は、佐賀県とそれほど



日高川町美山にて

ど変わらない。ただ、南に足を向ければ、そこには圧倒的なスケールの自然がある。紀南の海岸の景色は、一生一度はみておいたほうがいいと誰にでもおすすめできるスポットだ。高野山も好きで、森林のヒーリング効果をあれほど感じた場所はほかにない。

野菜を分けてくれたり、気軽に食事に誘ってくれたりと、なにかしら親切だ。

## 地域を盛り上げる拠点に

度はみておいたほうがいいと誰にでもおすすめできるスポットだ。高野山も好きで、森林のヒーリング効果をあれほど感じた場所はほかにない。

そんな環境のおかげか、和歌山の人の性格はおしなべておおらかだと思う。最初は警戒心があつても、慣れれば人と人の距離が近い。栽培した

和歌山市民図書館のコンセプトは、「知・情報・交流くつろぎの拠点」として、「本」と「人」と「まち」をつなぐこと。和歌山には、地域の盛り上げに貢献したいと考える人がたくさんいる。そういう人たちが協力し合えば、より大きな力を發揮できる。



### 野崎 貴志

1980年、佐賀県杵島郡大町町出身。佐賀県、福岡県で司書として勤めた後、2017年にカルチュア・コンビニエンス・クラブ株式会社に入社。2019年に和歌山県に移住。2020年8月から和歌山市民図書館西分館の業務責任者。2024年4月から和歌山市民図書館館長。業務のかたわら、3児のパパとして子育てにも奮闘中。



©Nacasa & Partners

### 和歌山市民図書館

和歌山県和歌山市屏風丁17番地  
南海電鉄「和歌山市駅」改札を出て左手すぐ  
開館時間：午前9時から午後9時まで／年中無休  
電話番号：073-432-0010  
URL：<https://wakayama.civic-library.jp/>

をつなぐ役割だ。館長の仕事は、図書館全体のマネジメントや広報活動、組織運営など多岐にわたるが、「つなぐ役割」を果たすことで、地域の盛り上げにも一役買っている。

もうひとつ、司書として強く思っているのは、やはり地域の子どもたちに本を読んでもらいたいということだ。「子どもたちに『本っていいよね』と思ってもらえるように努力するものが私の仕事です」。本と人と地域をつなぐ拠点の館



和歌山ジャズマラソンに参加

長として、今日も子どもたちに本の魅力を伝え、人と人をつないでいく。

上富田町長 奥田 誠

和歌山県の南西部に位置し、古くから熊野詣へと通じる入り口となる「くちくまの」から「くちくまの」と呼ばれています。世界文化遺産に登録されている八上王子跡や稻葉根王子跡、熊野詣に来た人が身を清めた水垢離場があり、歴史と自然の豊かさが魅力です。

上富田町は昭和33年に誕生してから人口が増え続けており、大東建託株式会社様による和歌山県住みいこちゃんキングでは、3年連続1位に選ばれるなど、注目が集まっています。

また、スポーツと健康づくりのため「くちくまのウエルネスタウン構想」をかけ、心身ともに健康になれるまちづくりを実践しています。スポーツセンターは、県内屈指の規模で、主にサッカーやラグビーに利用される天然芝、人工芝のコートの他、野球場、イベント広場を備え、各種の大会や合宿等で賑わっています。スポーツジムでは、地域住民の健康増進、介護予防の拠点として多くの方が汗を流しています。多くの方が上富田町に魅力を感じて集まり、住民も誇りを持てる、まちづくりを目指しています。



▲清流 富田川



▲水垢離場



## 編集後記

今号の特集を思い付いたきっかけは、私自身が中学時代に購入した和歌山市中心部の地図を実家で発見したことです。そこには、今はもうなくなってしまった店や、姿を変えた建物の名前がたくさん。行くだけでワクワクしたあの頃の中心市街、その面影が目の前にありありと浮かんでくるようでした。

とは言え、この特集の目的は、「昔は良かったなあ」と過去を懐かしむことだけではありません。令和を生きる私たちは、古い時代の良さを引き継ぎつつ、地域に新たな活気をつくっていく必要があります。今号では、それぞれのかたちで、そういう活動に取り組んでいる方々に登場していただくこともできました。

『ほうばわかやま』の合言葉は「ふるさと再発見」。再発見したものをどう生かしていくか。それを前向きに考える手助けになればと思っています。

編集長 宇治田 健志

### 『ほうばわかやま』発行について

和歌山の歴史・文化を掘り起こし郷土愛を育む一助になればと、弊社が自費で2008年から発行している情報誌です。また、この活動を通して、郷土と社内の活性化の両立を図ることを目的としています。

設置場所: 和歌山市内のコミュニティーセンター、県内の図書館、TSUTAYA WAYなど  
詳しくはホームページをご覧ください。

ほうばわかやまのバックナンバーは弊社ホームページからもダウンロードできます。

詳しくはウェブで検索→ <https://w-i-n-g.jp> ウイング 和歌山 検索

**協力機関** 本誌を作成するにあたり、次の機関・団体にご協力をいただきました。  
厚く御礼申し上げます。(順不同・敬称略)

本町文化堂、ゲストハウス RICO、中六薬局、有限会社オランジェ、  
和歌山市民図書館、

写真を提供してくださったみなさん

## アンケートで当たる!!



感想をお寄せいただくと...

抽選で5名様に

オランジェ様の  
『nuのマスク』をプレゼント!

こちらから感想をお寄せください!→

※お葉書でもお受けいたします。

640-8411 和歌山市梶取17-2

株式会社ウイング ほうばわかやま係 宛

〆切 2025年3月末日



株式会社  
**ウイング**

さくらノート  
和歌山

WAKAYAMA  
**COURSE**  
コース

地域と企業のブランディングをお手伝いする広告・制作会社です。「ほうばわかやま」の発行や本づくりを通じた地域文化の振興を目指しています。就職応援BOOK「COURSE (コース)」や、キャリア教育本「さくらノート」も発行しています。[沿革] 創業1972年。設立1981年。